

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075100208		
法人名	有限会社 希望の郷		
事業所名	グループホーム 希望の郷		
所在地	〒811-4215 福岡県遠賀郡岡垣町旭台3丁目5番5号 TEL 093-281-3360		
自己評価作成日	令和3年10月18日	評価結果確定日	令和3年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1	TEL:092-589-5680	HP:https://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和3年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

「希望の郷」は海老津駅からバスで10分ほどでアクセスもよく、閑静な住宅地に立地しており、自然にも恵まれている。散歩中に庭のお手入れされている近隣の方と挨拶を交わしたり、庭で採れた野菜や果物を頂いたり身近なお付き合いができており、地域に溶け込んだ施設になっている。また地域の夏祭りに参加させて頂いたり、地域合同での避難訓練を施設にて開催させて頂いたり地域自治会とも良好な関係を築いている。家庭的な雰囲気でも利用者やスタッフが喜怒哀楽を共に共有できる信頼関係が築けている。また医療連携体制を構築しており、24時間いつでも看護師と連絡がとれ相談が出来る。必要時に訪問し主治医への連絡・連携が可能な体制を確保している。また平成29年より、警備会社による防犯カメラと駆け付けによる警備を導入し防犯に向けた対策を設けており、利用者・スタッフが安心できる環境となっている。

「希望の郷」は平成13年に開設され、1ユニットで平屋からなる。アクセスも良く、閑静な住宅地に立地し、自然に恵まれている。地域合同での避難訓練を施設で開催させて頂き、地域住人、区長、自治会長、民生委員さんなど良い関係が築けている。消防署とも良好な関係が保たれており又警備会社による警備を導入し、防犯に向けた対策を設けている。24時間看護師との連絡が取れ、主治医連携が可能な体制が確保されている。コロナ禍の中、地域との交流は思うようにできなかったが、子ども会よりお便りをいただき、掲示している。自治会から回覧板を届けてもらったり、事業所前が通学路になっており、事業所内から子ども達に挨拶をしたりと、地域との関係をできる範囲で行っている。事業所としてはレクリエーション、歩行訓練など身体を動かすことに力を入れている。月1回、数回、数人づつドライブに行き季節の移りを感じてもらおう。家族の訪問も限られた時間だが行ってもらっている。今後もその人らしく暮らし続けることを支援し、地域に密着した事業所として発展が大いに期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者一人ひとりを個人として尊重し、地域に溶け込みその人らしく暮らし続けることを支援します。」という理念を理解した上で、目標・重点目標を掲げ、朝・夕の申し送りに唱和し、日々のケアの実践へ向け取り組んでいる。	理念は開設当初に代表者が作製した。会議室に掲げてあり、名札の裏にも書かれている。「利用者一人ひとりを個人として尊重し、地域に溶け込み、その人らしく暮らし続けることを支援します」という理念をふまえて月間で担当者が一人づつ、順番に目標(尊重、感謝、笑顔、希望、家庭的)を掲げる。朝、夕の申し送り時に唱和する。内部研修のあと話し合いを行い、日々のケアの実践へ向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	自治会に入っており閲覧版やごみ置き場の清掃などにも参加し、利用者と共に地域の行事に参加させて頂いている。又、通勤・通学・散歩中の方と挨拶を交わしたり、談笑したりしている。年1回、地域合同の避難訓練を実施していましたが昨年より新型コロナウイルスの流行の拡大により中止させて頂いております。	敬老会にボランティアさんの訪問があり大正琴の演奏を聴き、日本の伝統芸能に親しむ時間が持てた。小学校の職場体験がありクッキー作りをした。地域合同の避難訓練も行っていたが、コロナ禍の中、地域との交流も困難となった。自治会に入会しており閲覧版を届けてもらっている。職員がごみ置き場の清掃などに参加している。事業者前が通学路になっており、事業者内から子ども達と挨拶を交わしている。	地域との繋がりが深く、自治会とも良好な関係が築けているが、今後公民館とのつながりを持たれ、地域とのより深い関係を構築されてみたらどうだろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所が積み上げてきた認知ケアを時間が許せば地域の高齢者の暮らしに何か役立つことはないか話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族代表・地域住民代表・町役場の担当者の参加等で2か月毎開催し、事業計画・重点目標・生活目標・現況報告・行事計画を報告している。又、質疑応答で出た意見や要望を真摯に受け止め、サービス向上に努めている。昨年より新型コロナウイルスの流行の拡大により中止させて頂いております。	二か月1回開催し家族、地域住民代表、町役場の担当者などの参加があり、事業計画、生活目標、現状報告、行事計画などを報告し、意見、要望を伺い、サービス向上に活かしている。行政、民生委員さんには議事録などを送付している。玄関で閲覧できるようにしている。家族には毎月「希望の郷」通信にて事業所での様子、写真などを送付している。会議への家族の出席は同じ方が多い。以前はみかん狩りと一緒に開催し、家族の出席もあった。	以前はみかん狩りと一緒に「運営推進会議」を行ったことがあるとの事。今後何かの行事と一緒にされてみたら、家族の出席も幅広くなるのではないだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行事の時などに担当者の方にも参加して頂くように声掛けし、開かれた事業所を目指すと共にサービス向上に取り組んでいる。	運営推進会議の時に合同で避難訓練を行い、町役場の担当者の方へも声かけを行っている。ワクチン接種の事も電話で相談した。介護保険の更新申請は管理者が郵送している。運営推進会議に参加してもらい、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えながら協力関係を築くようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表が身体拘束廃止に対する意識を強く持っており、全職員は身体拘束の弊害について理解し、拘束のないケアの取り組みをしている。	身体拘束などの排除の取り組みに関する研修「虐待防止研修」を管理者が定期的に行い、全職員は身体拘束の弊害について正しく理解している。センサーの使用もない。夜間は玄関は鍵をかける。警備会社による防犯カメラと駆け付けによる警備を導入し防犯に向けた対策を設けている。スピーチロックは気が付いた時に注意を行い、職員全員で拘束のないケアに取り組んでいる。	

R3.10自己・外部評価表(グループホーム希望の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	代表が虐待防止に対する意識が強く、職員は高齢者虐待防止について正しく認識しており、利用者に虐待が一切行われないよう会議など職員間で虐待防止に向けて共通の意識を持つよう取り組みを行っている。また職員間でも見過ごさないように注意し、防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要とされる利用者やご家族様から要望があればパンフレット等で説明出来るように、学ぶ機会を持ち活用出来るよう支援している。	家族が後見人になっている方が1名おり、職員は周知している。管理者が職員に説明はしており、学ぶ機会を持ち制度の理解はしている。パンフレットの準備もあり、必要とされる利用者、家族から要望があれば、パンフレットで説明できるように学ぶ機会を持ち、それらを活用できるように支援をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には契約書等を渡し、文書・口頭で十分説明し、ご本人・ご家族の方に不安や疑問点を尋ねて頂き理解・納得を図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時は職員は声掛けをして意見や要望が気軽に言える雰囲気づくりに努めている。意思表示の可能な利用者には日常接する中で聞き取ったり、行動から感じ取って反映するようにしている。	家族の訪問時に、職員は声かけをして意見要望を気軽に言えるような雰囲気づくりに努めている。コロナ禍の中、訪問は時間の制限はあるが、対策の上、10分程度は訪問してもらい、ご家族にも安心してもらうようにしている。毎月の「希望の郷」通信で施設の様子を写真付きで知らせている。意見箱を設置している。	コロナ禍ではあるが、利用者、家族ともに安心して生活ができるように心配りが充分にされており、アンケートの回収率も素晴らしく、家族から安心、感謝の言葉が寄せられている。意見箱を設置してあるとの事、「希望の郷通信」の中に一筆便などを入れ、意見箱に意見、要望などを入れやすくすることで、より多くの意見を集約してみたらどうだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全体会議を設け、代表・管理者を交え職員の意見や提案を聞く機会を設けており、それを反映させている。意見や提案は全員で検討し良ければ、実施に向けて取り組むようにしている。	月1回の全体会議で代表、管理者の話がある。ケア会議では日頃から気が付いた事は話し合う。こどもの保育園の利用のめどが付き仕事に復帰できた。仕事の内容を見直してもらったり、業務量のバランスの相談などにも乗ってもらうなど、個人的に融通もつけてもらい、働きやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員個々の努力や実績等把握し、キャリアアップによる待遇を示し、各自が向上心をもてるよう就業環境整備に努めている。また、働きやすい勤務体制に取り組み、事前に希望休日を聞いている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用にあたって性別・年齢・宗教等による採用対象から排除しないようにしている。又、働く職員については、能力が発揮できるようそれぞれに係を担当して、自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	制服もあり、一時間の休みと休憩場所もある。パソコンでの書類作製、飾りつけが得意、作成物などそれぞれ得意な分野で能力を発揮している。今後認知症ケアの勉強をしたいとの希望があり、自己研鑽に励み、仕事にやりがいを感じている。	

R3.10自己・外部評価表(グループホーム希望の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人代表・管理者は利用者に対する人権を尊重する為に職員等に対して会議や研修等実践を通じて話をし、啓発活動に取り組んでいる。	管理者が3か月に1回内容を決め、「同和問題に関する研修」「事故発生予防・再発防止に関する研修」「プライバシー保護」に関する研修などを行っている。本人の希望があれば電話をかけたリ支援を行っている。家族からの手紙は代読したり、家族の記念日には手紙を書く準備をするなど、個々の利用者に合わせた支援を行っている。	外部機関の社協、包括、人権団体などから学習資料やDVDを借りて視覚から入る勉強会も、行ってみたいかどうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表・管理者は職員育成が不可欠であることを理解し、段階に応じた内部・外部研修を受ける機会を確保している。月1回の定期的な内部研修以外にも働きながら様々な資格を取っていきけるよう、考慮・支援している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員が地域の同業者と交流できるよう、研修会に積極的に参加してサービスの質の向上に向け取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時に、本人の不安や困りごと、要望等をコミュニケーションを取る中で聞き出し受容する努力をしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面会に来られた際に不安や要望等相談されたことに対して誠実に対応している。また、家族の不安を取り除くと共に安全・安心した暮らしが出来る事を伝え、家族の思いに寄り添う努力をしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には十分に話を聞き、その時まず必要としている支援かどうかを見極め、安心してサービスが利用できるよう努めると共に、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器トレー拭きや洗濯たたみ・料理の味付け等利用者と共に歩いており、互いに支えあいながら暮らしを共にする関係を築いている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を中心に職員と家族が情報を共有し、共に本人を支えていく関係を築いている。面会時には本人と家族が楽しく過ごせるよう配慮している。		

R3.10自己・外部評価表(グループホーム希望の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、馴染みの方が気兼ねなくいつでも訪問して頂いたり外出して頂けるような関係が続く様支援に努めている。	スポーツの仲間が訪問したり、友人が電話をかけてきたり、手紙をもらうこともある。家族と一緒に外出されたり、一年前には法事のためお坊さんが見えた。家族の協力を得て、馴染みの日地や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	見聞きの違いで時折トラブルがあるが、利用者同士の関係を把握し情報を共有化することにより孤立を防ぎ、利用者同士支えながら共に暮らし、両行な関係が維持できるよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても継続的な関わりを必要とする利用者や家族には何かあれば相談して頂く様伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴・生活習慣を把握し、希望や意向に添いながらニーズに対応するよう努めている。困難な場合にはセンター方式を利用する等、本人本位に検討している。	入居時は事業所、自宅、病院、施設などで代表者、所長、管理者などが、利用者、家族からこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、不安、要望などの思いをしっかりと聞き取り、思いに寄り添うようにしている。言葉で表すことが難しい場合は表情、仕草などから思いをくみ取るようにし、本人本位に検討をしている。アセスメントに基づき暫定プランを立てる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方を十分把握し、今後のサービスに何が必要か認識しながら取り組んでいる。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の個別のペースにあった生活リズムを尊重し、一人ひとりの現状を把握しながら日々の過ごし方・心身状態・有する力の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議を開き、気づいたことや意見を出し合い本人と家族の要望や主治医の助言をもとに、本人の状態に添った介護計画を立てている。	担当者は1~2名受け持ち気付きを大事にして申し送りを行っている。ケース会議を開き、意見を出し合い、情報を共有し変化を見逃さないようにモニタリングを行い、担当者会議では利用者、家族の意向、要望を聞き取り、目標達成状況、医師、看護師などの意見を取り入れ、本人の状態にそった介護計画を立てている。短期は6か月、長期は1年で、変化があった時にはその都度作成する。	ケアプラン実施記録は独自の様式で、ケア内容、留意点、留意事項が一目で分かりやすく、プランに沿って実施項目がなされているかが、はっきりとわかり、本人の状態に沿った介護計画が立てられている。今後も引き続き現状に即した介護計画を作成することに期待したい。

R3.10自己・外部評価表(グループホーム希望の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の目的を把握し、日々の様子・ケアの実践結果、気づいた事を個別に記録することにより変化に素早く対応でき、職員内の情報を共有し介護計画の見直しの活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	住診内科・歯科やその他送迎・出張美容室等本人や家族の要望にて支援している。又、外泊・外出等家族や馴染みの方が面会に来られた時は居室やリビング・玄関ソファで外を眺めながら談笑されたり、レクリエーションに参加して頂いたり、一緒にお茶を飲んで頂いたり柔軟な支援をしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の生活安定の拡充の為外食時の予約や刻み食を提供して頂いたり、事前に車いすを運び込ませて頂いたりと協力を得ながら地域で豊かな生活が送れる様に支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等の希望に添ったかかりつけ医となり、何か異常があれば利用者の状態に応じ、病院や家族と連携を取り適切な医療を早期に受診出来る様支援している。また、家族と連携を取りながら支援している。	利用者、家族の希望にそったかかりつけ医となっている。現在ほとんどの方が提携医をかかりつけ医としており、医師の往診を受けている。24時間、看護師と連絡が取れ相談ができ、必要時には訪問し、医師への連絡が取れ、医療連携を大事にしている。服薬に関しては職員全員で利用者一人ひとりの服薬内容を十分に把握し、対応している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との医療連携体制を構築しており、24時間、いつでも連絡がとれ、相談が出来、必要時に訪問し主治医への連絡・連携が可能な体制を確保している。また、かかりつけ医の看護師等へも利用者の日常生活の健康管理を相談しながら支援への助言を頂いている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や医療機関と情報交換を密にしており、早期退院に向けたリハビリメニューを組んで頂いたり、退院後の相談出来る様な関係作りに努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との連絡を密にし、かかりつけ医と連携を図りながら全員で方針を共有している。重度化した場合、終末期の対応は可能な限りホームで対応する事を家族に説明している。医療が必要になった場合、医師・家族含めて話し合いを行い入院の時期を決めている。	重度化や終末期の方針について利用者や家族に説明をしている。3～4年前におひとりの看取りを行った。看取りのマニュアルもあり、リフレットで確認する。重度化した場合、終末期の対応は可能な限り事業所に対応することを家族に説明している。医療が必要になった時は医師、家族を含めて話し合いを行い、大きな病院で対応してもらっている。	

R3.10自己・外部評価表(グループホーム希望の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを整備しており、急変や事故発生時に冷静に対応出来る様内部研修を実施し、全職員が応急手当や初期対応の訓練をし、今後も定期的を実施するようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自動火災報知機・スプリンクラーの設置また外部に通報ベルを取り付け、近隣の協力得られる様お願いしている。月1回避難訓練を実施しており火災・地震災害・夜間の順に繰り返し行い、消防立ち合いでの避難訓練も実施している。また1年に1回地域合同の避難訓練を実施しており、地域全体で非常時の連携体制を整えている。更に平成29年より新たに警備会社と警備契約を締結し、災害発生時や緊急時には警備会社の協力も得ることができるよう改善した。	月1回自主避難訓練を、火災、地震災害、夜間の順に実施している。消防署職員の立ち会いもあり、水消火器の訓練を行った。1年に1回地域合同の避難訓練を実施しており、地域全体で非常時の連携体制を整えている。消防署、地域との話し合いで、消火栓ポンプの消火栓の管理を事業所で行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者のプライバシーを損なわないように排泄介助や入浴を行っている。又、日頃より利用者を尊重した言葉かけや対応をしており、生活目標にも掲げている。	3か月に1回管理者がプライバシー保護、身体拘束、接遇マナーなどの研修を行っている。日頃から一人ひとりの人格を尊重した、言葉かけや対応をしている。言葉かけに気がつたときはそのつど注意をしている。個人情報の同意書を契約時にもらい、写真利用の同意は口頭で頂いている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の状態合わせ、利用者が自己決定できるような場面作りを行った上で見守りを行いご本人が満足した生活を送れる様支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状態・状況に合わせ、利用者の希望を傾聴し、ご本人の要望に寄り添い寄り添い無理強いする事なく、ご本人が納得した生活を送れるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度出張美容室利用し、ご本人の希望を取り入れたカットや顔そりをして頂いている。衣服等についてもご本人の希望を尊重し、着用して頂いている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭的な雰囲気の中で楽しく食事をして頂けるような食事作りを心掛けている。また、味・彩り・栄養に配慮しながら旬の物を取り入れ食材の下準備など職員と共に行っている。食事中には落ち着いた音楽を流し、職員も同テーブルにて楽しく食事をして頂いている。	配食サービスを利用している。彩もよく食欲をそそる献立になっている、ご飯、みそ汁は事業所で作る。きざみ食の利用者もいる。お誕生会は一人づつ行い、ちらし寿司を作ったり、プレゼントを用意する。ケーキの飾りつけを利用者と一緒に行っている。食器トレイ拭きなどを行ってもらう。食事中には落ち着いた音楽を流し、楽しい食事時間を過ごしている。	

R3.10自己・外部評価表(グループホーム希望の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の摂取量や、水分摂取状況等を記録し、栄養摂取に病院より制限のある方は個々の状態に応じた支援をしている。おやつについても栄養バランスを考慮し提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者個々の口腔状態を把握し、歯磨き・義歯消毒・うがいを毎食後本人の力に応じた対応しており、口腔内の異常があった場合は、歯科受診を行って早期対応に取り組んでいる。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に継続して記録しており、泄の自立に向けて間隔や兆候に合わせて前誘導を実施している。	排泄チェック表から利用者一人ひとりの排泄パターンを把握することにより、パッドの使用量が減ったり、大から中のパッドに交換された。排便状況を把握し、腹部マッサージや水分補給、消化の良い食事を提供している。一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて利用者一人ひとりの排便状況を把握した上で、腹部マッサージや水分補給・消化の良い食事を提供している。また必要に応じ医療機関と連携を図っている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴日になっており、利用者の状況・状態に合わせて入浴日でなくても入浴して頂いている。また、拒否がある場合には時間をおいたり気分転換を図る等対応している。	入浴は火、木、土の週3回になっており、利用者の状況、状態に合わせ、それ以外の日でも入浴してもらっている。入浴拒否のある時は、時間をおいたり、気分転換をしてもらう。個浴であり、入浴時はコミュニケーションの場として大事にしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日頃の利用者の就寝までの状況を把握し、安心して就寝が出来る様、声掛けや見守り、環境作りを行っており睡眠時間が短い方や眠れない方については医療機関に相談している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服薬内容を十分把握して、医師からの処方箋や助言を間違いなく理解した上で、利用者に対応している。また、副作用に関しては速やかに医師に伝え診断を仰いでいる。周辺症状に対して処方された薬については、服薬後の変化等を確認出来るように取り組んでいる。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々のニーズに応じた取り組みを実施し、何が得意・不得意かを見定めながら、職員が暖かみのあるサポートをし、利用者が楽しんで主体的に活動出来るよう支援している。		

R3.10自己・外部評価表(グループホーム希望の郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月の外食は希望を聞き取り場所を設けていたが、昨年よりコロナウイルスの流行の拡大により自粛しており、月1回のドライブに出掛けている。	毎月1回は希望を聞き取り外食に出かけていたが、コロナ禍の中自粛している。月1回、事業所の車で3人ずつ3回に分けて海岸沿いをドライブするなど、気分転換をしたり、季節の移ろいを感じてもらおうようにしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等不安を抱える原因になるので、お預かりしているが、持っていることで安心される方は少額を持って頂いてる。以前はショッピング等に取り組んでいたが現在ではお金を使われる利用者がおりません。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話をかけたり支援している。ご家族から手紙が届いたときには代読してお伝えし、ご家族の記念日には手紙を書く準備をするなど個々に合わせた支援をしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全を第一に考え安心して共有空間を共有出来るよう気配り(室温・湿度チェックや採光調節など)し、利用者と共に作ったカレンダーを掲示している。廊下にはレクリエーションで作った折り紙や書道などの作品を掲示している。またリビング横のウッドデッキは全体を緑色に塗り替えし、明るい雰囲気的空間になるようにした。	室内は日当たりがよく明るい。壁には利用者と一緒に作ったカレンダーを掲示してある。廊下にはレクリエーションで作った紅葉や書道などの作品が飾られている。リビングにはテーブルが斜めにモダンに並べてあり、和やかにレクリエーションを楽しんでいる。ウッドデッキはさわやかなグリーンに施され、オシャレなモダンなたたずまいになっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で、玄関及びリビングにソファやイス等のくつろげる場所を設け、利用者がお互いに誘い合っている場として活用できる工夫をしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の協力の下、思い出の品や使い慣れた家具類を置き、自己管理できる利用者には冷蔵庫・TV等を居室にて使用し、居心地よくプライベートの時間を過ごせるように工夫している。	室内にはエアコン、ベッド、カーテン、収納庫が備え付けてある。趣味の写真を飾ったり、使い慣れた筆筒、仏壇、家族の写真などに囲まれ、室内は思い思いにカラフルに彩られ、居心地よい時間を過ごしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり身体機能を活かし、自立した生活が楽しく送れるようにその場に目印を掲示するなど環境作り工夫している。		